デジタル人材育成 全学部で推進

新年のあいさつ

本学は新年あいさつ行事を１月６日、世田谷キャンパス10号館多目的フロアで開催した。学園役職者・教職員ら約500人が出席し、この一年の一層の飛躍を期した。大澤英雄理事長のあいさつを福本正幸常任理事が代読して、「来る創立110周年を目標に、全教職員の英知とアイデアを結集して、国士舘が目指す教育実現のためまい進していく」と述べ、佐藤圭一学長は大学における諸課題を見据え、「教学マネジメントの推進により改革・改善を進め、自律的な考えを持つ国士を世に送り出すことで国民の信頼と負託に応える」と決意を示した。

地域社会との連携さらに発展

大澤英雄理事長

新年おめでとうございます。

国士舘は創立から106年目の新たな年を迎えました。

コロナ禍で入学した学生も４月から４年生となります。教育研究活動、課外活動を含め、対面でのキャンパスライフに戻っておりますが、学生の安全・安心を第一に、これまで本学園関係者など約１万6200人に実施した新型コロナウイルス大学拠点接種を、本年も継続してまいります。

昨年は、コロナ禍で制限されていた海外渡航が緩和され、学生の海外研修をはじめ、東京2020大会のレガシーともいえるスポーツ国際プロジェクトへの参画、エジプトやカンボジアへの病院前救急医療分野での人材育成協力など、国際的な視点で質の高い教育研究、社会貢献に再び取り組んだ年となりました。

さらに、地域社会をフィールドとした教育研究活動も広がりをみせており、今年度生涯学習センターを改編してスタートさせた「地域連携・社会貢献推進センター」が、自治体や地域社会との連携の総合窓口として役割を果たすべく、引き続き注力してまいります。

令和２年度から実行の第２次中長期事業計画も令和６年度まで残すところ約２年となりました。世田谷キャンパスを中心とする校舎の整備計画にも着手し、基本構想・計画の検討を進めているところです。当計画は時代の要請に応えた国士舘教育を実現させる好機と位置付けるとともに、第３次中長期事業計画の礎とすべく、学園全体の改革と連関させ、包括的な施策として計画・実行してまいる所存です。

社会構造がさらに大きく、かつ急速に変革していく中で、新たな価値を創造し未来を担う人材の養成が求められています。

自然災害が頻発する日本において、本学園が10年来継続する防災教育は、時代のニーズに即した教育内容に適宜深化させており、世のため人のために尽くしうる人材教育としてさらに力を注いでまいります。

加えて、スポーツ推進およびアスリートを支える人材の育成、デジタル社会に対応できる人材教育など、刻々と変化する社会に対応し、直面する課題を解決できる心身共にたくましい若者を育てます。

併せて、創立110周年記念事業募金へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

文・理の垣根超え洞察力涵養

佐藤圭一学長

新年のお慶びを申し上げます。

新春の箱根駅伝について、本学選手への熱い声援に対し、心から感謝申し上げます。３年ぶりに沿道での応援が解禁され、関係者をはじめ多くの方々から受けたご厚意や激励は、伝統の箱根駅伝に出場し続けることの意義と価値を改めて実感させるものとなりました。

さて、大学は18歳人口の急激な減少も相まって大学全入時代に突入しました。国公私立問わず「推薦・総合型選抜」が一挙に増えると同時に、入学前教育ならびに初年次教育が重要性を増し、その成否が大学の命運を分けるものとなりました。

このパラダイムシフトにおける本学の課題の一つが私学・国士舘としての使命を果たすことです。

私学の使命は、教育目的を達成することによって国民の信頼と負託に応えることです。本学の教育目的とは、「建学の精神」と「教育理念」の実現であり、「国を思い、世のため、人のために尽くせる」公徳心溢れる国士を養成することにあります。そのためには、これらを学風はもとより、教職員の陣容、カリキュラム、クラブ活動、キャンパス整備などにより浸透させる必要があります。

二つ目が教養教育の一層の充実です。気候変動、貧困格差、ウクライナ侵攻、コロナ禍など社会が激しく変化するなか、自らの人生を主体的に確立し、課題を解決できる自律した人材の育成が求められています。文系理系の垣根を超えた幅広い分野で学びを得た豊かな教養は、現実を適切に理解し、異なる意見や多様な価値を認めながら答えを導き出す寛容さと深い洞察力を培います。

社会の課題を解決し、大学としての責務を果たすため、本学では教職員が一体となって全学的な教学マネジメントを推進し、改革・改善を進めています。４月からは全学部で「AI・データサイエンス」科目を必修化する予定であり、すべての学生がデジタル社会で活躍できる人材となるための環境整備もその証左です。

幾多の艱難辛苦を乗り越え、今日の繁栄を築いた先人の恩に報いるためにも、本学はこれからも、個性豊かなオンリーワンの大学として選ばれ続けなければなりません。脈々と受け継がれる尊い松明（たいまつ）を次世代へと託すことを期して新年のあいさつといたします。

佐藤学長３期目 再任
教育価値創造 さらに深化

佐藤圭一現学長の任期満了に伴う次期学長について「国士舘大学学長に関する規則」に基づき、昨年10月26日の理事会で佐藤学長の再任が決議された。任期は、令和５年４月１日から同７年３月31日まで２年。

佐藤学長は、平成27年に第11代学長に就任し、令和元年の学長選出規則の一部変更後に再任された。２期目に入った令和２年からは、第２次中長期事業計画に基づく各事業に取り組み、学生に新たな付加価値を提供するための多様な教育プログラムの構築を推進した。

なかでも「AI・データサイエンス教育プログラム」の全学部導入と副専攻制度の設置、地域社会との連携強化に向けた組織改編など社会の要請に即応する本学教育体制を強化した。３期目では、これまでの取り組みをさらに深化させ、社会の課題解決への貢献と新たな価値創造を目指す。

佐藤圭一（さとう・けいいち）政経学部教授。青森県弘前市出身、67歳。専門はアメリカ政治史。昭和54年国士舘大学政経学部卒業、同59年同大学大学院政治学研究科政治学専攻博士課程修了。平成18年政治学博士（国士舘大学）。昭和59年本学に入職。平成14年政経学部二部教授、同15年政経学部教授、同24年大学院政治学研究科長、同27年本学学長。同27年学校法人国士舘理事、同評議員。比較憲法学会理事。田上穣治賞（比較憲法学会）受賞。

新春 拓く 寒稽古

松陰神社社殿前で一年の健康と活躍を願って杖道の演武を奉納

気合込め１952人

国士舘武道教育の一環として実施する本学恒例の寒稽古が１月12・13日に３年ぶりに実施され、世田谷、町田、多摩の各キャンパスで活動する武道系を中心とした18クラブの学生・教職員延べ１952人が参加した。

12日は、世田谷キャンパスを中心に活動する７クラブの学生約30人が松陰神社で一年の活躍を願い奉納演武を行った。学生らはまず、社殿に玉ぐしを奉納した後、社殿前でそれぞれ順番に演武を披露した。参加した少林寺拳法部の学生は、「初めて寒稽古に参加したが、とても貴重な経験ができた。寒さはあったが参加して良かった」と述べた。

奉納演武には佐藤圭一学長らも同席し、境内に響く掛け声とともに学生の気合の込もった演武を見守った。

対面基本の修学環境を維持

新年度の方針

本学は、令和５年度の授業について、引き続き対面授業を基本として行う方針で各方面の準備を進めている。教室の定員は現時点においては収容人数の６割を基準とし、それ以上の場合はオンラインを併用するなどして対策を講じることとしている。

また、ワクチン接種の推奨と健康観察など、基本的感染防止への呼びかけは引き続き行っていく。

令和４年度の秋期授業では、９割以上の授業を対面で実施している。新型コロナウイルスへの政府の方針は社会生活を維持しながらの対策に変わりつつある。本学も感染対策を講じたうえでゼミ合宿や課外活動などを実施しており、今後も政府の方針に応じて柔軟な対応を取っていく。

２月11・12日には、在学生・教職員・学園関係者などを対象としたオミクロン株対応の新型コロナワクチン大学拠点接種を予定している。大学構内という利便性を生かして接種を呼びかけ、引き続き安心・安全な修学環境を維持していく。

ホームカミングデイ 180人 楓門祭も楽しむ

ゲストとして登壇した高校柔道強豪校の監督を務める卒業生ら

３年ぶり19回目となる令和４年度ホームカミングデイを昨年11月３日、世田谷キャンパスの多目的ホールで開催し、全国各地から卒業生約180人が集った。

開式にあたり、佐藤圭一学長が「国士舘は百年を越える伝統と21世紀の斬新さを調和させた学園と評価をいただいている。引き続き、日本の優れた精神文化を継承する人材養成の使命を果たしていく」と述べ、大澤英雄理事長は、創立者から授けられた「人の一生は短い。思い立ったらすぐに自分を磨き人生を豊かにしなさい」との教えを可能な限り学生に伝えていきたいと話した。また、国士舘大学同窓会の坂本勝矢会長が「同窓生の皆さまには、国士舘での学びを引き続き社会で発揮していただきたい」と呼びかけた。

さらに、ゲストとして全国の高校柔道強豪校で指揮を執る卒業生の監督４人が登壇。国士舘高校柔道部総監督の岩渕公一中学・高等学校校長が４人の略歴と高校柔道３大大会の上位を占める各校の活躍を紹介した。

その後、本学紹介映像の上映、應援團リーダー部、チアダンス部、吹奏楽部による箱根駅伝応援演技と続き、最後に参加者全員で舘歌を斉唱した。

閉式後、卒業生は同日に開催された楓門祭を楽しみながら旧交を温めた。

創立105周年記念式典「たくましい若者を」

祝辞を述べる稲田議員

国士舘創立記念日となる昨年11月４日、国士舘創立105周年記念式典を世田谷キャンパス10号館の多目的フロアで挙行した。式典には元防衛大臣の稲田朋美衆議院議員らを来賓に招き、大澤英雄理事長、佐藤圭一学長、岩渕公一校長をはじめ、役員、教職員、学生・生徒ら約500人が列席し、創立105周年を祝った。

式典では、国歌斉唱の後、本学園に在籍した物故者に対し黙とうが捧げられた。続いて、大澤理事長が式辞を述べ、創立者・柴田徳次郎から教育への情熱ほとばしる薫陶を受けた一人として、「世のため人のために尽くせる心身共にたくましい若者の育成に一意専心する」と決意を表した。

次いで、来賓の稲田議員が祝辞を述べ、国家の柱石を担う人材の輩出、防災教育をはじめとした地域・社会への貢献など本学の取り組みに対し敬意を表した。また、ロシアによるウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル問題、各種災害などを挙げ、「このような時代だからこそ、国士舘が目指す日本の良き伝統を守りつつ新しい日本を創造できる人材が必要であり、今後も国家、社会、地域に有為な人材の育成にまい進してほしい」と本学へ期待を寄せた。

その後は、永年勤続者表彰、全日本大会などの上位入賞者・団体表彰、善行功労表彰、国士の家の代表者および高額寄付者への感謝状贈呈、舘歌斉唱と進み、最後に万歳三唱し、閉会した。

（表彰者一覧は2面）

第１回国士舘救急救命士会フォーラム

平成12年に設置された体育学部スポーツ医科学科は、令和３年度までに2813人の卒業生を輩出しており、卒業生は消防機関をはじめ、その他公的機関、医療機関、民間企業など全国で活躍している。

今回、在学生と卒業生のネットワーク構築を目的にフォーラムを開催する。詳細は次のとおり。

卒業生７人が登壇

日時：令和５年２月25日（土）13時～16時30分
場所：多摩キャンパス201教室
対象者：本学在学生・卒業生・教職員、一般（一般の方はWEB参加のみ）
参加方法：対面、リアルタイムWEB
テーマ：国士舘大学が輩出する救急救命士の将来像
参加費：無料
主催：本学体育・スポーツ科学学会、体育学部スポーツ医科学科
協力：大学院救急システム研究科

詳しくはこちら→

令和４年度 国士舘大学卒業式のご案内

以下の日程で実施する予定です。保護者・ご家族等の皆様の参列方法などの最新情報はホームページをご確認ください。

【実施日】令和5年3月20日(月)　【会 場】パシフィコ横浜　国立大ホール

	開 場	着席完了	対象
午前の部 10:30~12:00	9:30	10:15	大学：政経学部、体育学部、経営学部 大学院：全研究科
午後の部 14:30~16:00	13:30	14:15	大学：理工学部、法学部、文学部 21 世紀アジア学部

令和５年度 国士舘大学入学式について

以下の日程で実施する予定です。保護者・ご家族等の皆様の参列方法などの最新情報はホームページをご確認ください。

【実施日】令和5年4月7日(金)　【会 場】パシフィコ横浜　国立大ホール

	開 場	着席完了	対象
午前の部 11:00~11:45	10:00	10:30	大学：政経学部、体育学部、経営学部 大学院：5 研究科
午後の部 14:30~15:15	13:30	14:00	大学：理工学部、法学部、文学部 21 世紀アジア学部 大学院：5 研究科

お問い合わせ：教務課　TEL 03-5481-3203

題字は創立者
柴田德次郎筆
発行所
学校法人国士舘
〒154-8515東京都世田谷区世田谷4-28-1
編集　広報課
☎ 03-5481-3115

国士舘大学

国士舘大学新聞はウェブサイトでもご覧になれます

www.kokushikan.ac.jp/information/public_relations/news_paper/

年４回・25日発行
（1・4・7・10月）

卒業生の皆様へ

いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。

発送停止やご住所の変更は下記までご連絡くださいますようお願いします。

同窓会事務局
TEL：03-3413-7303
［平日 9:00 ～ 17:00］

今号の紙面

▼創立105周年記念式典表彰者一覧……【2面】
▼三笠宮家・彬子女王殿下特別ご講義……【4面】
▼先輩の実例に学ぶ就活最前線……【5面】
▼斉藤立選手 柔道マスターズ初出場初優勝の快挙……【6面】

国士舘創立110周年記念事業の寄付金募集

募金の趣意

国士舘は、創立 100 周年記念事業 (2006 ～ 2018) を完了し、「第 1 次中長期事業計画 (2015 ～ 2019)」を経て 2019 年に新たなビジョン「第 2 次中長期事業計画 (2020 ～ 2024)」を公表しました。第 2 次中長期事業計画では、第 1 次から推進してきた「地域防災力向上のための防災リーダー養成教育に関する研究拠点の構築」の完成を目指します。また、防災教育・研究をはじめ各キャンパスの教育・スポーツ施設の整備を進めます。これらの取り組みにより、本学園の長期にわたるこれまでの改革を更に推進し、私学を取り巻く厳しい環境下で競争力を高めるための計画事業を完遂し、学園改革の総仕上げを目指します。来る創立 110 周年に向け、本学園のビジョン実現に全力を挙げてまいります。

わが学園が「世のため人のために尽くしうる有為の人材の養成」の建学の精神のもと、国士舘独自の教育をもって発展を続けていることにご理解を賜り、創立 110 周年記念募金事業計画に温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

- 募金目標額：10 億円
- 募集期間：令和 2(2020) 年 4 月～令和 10(2028) 年 3 月（8 年間）
- 寄付の方法：個人でお申込みの場合、オンライン決済と金融機関から振込む方法が選択できます。

オンライン決済ご利用の場合	金融機関ご利用の場合
クレジットカード・コンビニエンス払い・Pay-easy（インターネットバンキング）をご利用の場合は、本学ホームページよりお申込みください。	募金趣意書の巻末にある「払込用紙」でお振込みください。お手元に所定の「払込用紙」がない場合はお送りしますので右記へお申込みください。

※法人でお申込みの場合は、お問い合わせください。
※税制上の優遇措置もございます。詳細はお問い合わせいただくか、本学ホームページをご覧ください。

募金の概要

期　別	主な事業項目
通　期（2020/4～2028/3）	▶ 学生・生徒への修学支援事業
	▶ スポーツ・文化活動の振興
	▶ 国士舘大講堂（国登録有形文化財）の保存および防災対策
	▶ 高等学校・中学校の教育環境の充実
	▶ 3 キャンパスの教室等の重点整備
	▶ 防災教育の推進強化
	▶ 世田谷キャンパスの再整備の検討
第 1 期（2020/4～2022/3）	▶ 町田キャンパスの整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスの運用開始
	▶ 多摩キャンパスの拡充整備
	▶ 近隣の救急病院等との連携構築
第 2 期（2022/4～2025/3）	▶ 多摩南野キャンパスの整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスへのスクールバス運行
第 3 期（2025/4～2028/3）	▶ 5キャンパスの施設環境の充実

※上記の「主な事業項目」は、計画の具体化により若干の変更を伴います。
また、寄付金は、総事業費の一部に充当させていただきます。

寄付金募集の報告

国士舘創立110周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、皆様からの心温まるご支援をいただきました。ご厚志に感謝申し上げます。

● 寄付者区分内訳　（令和 4 年 12 月 31 日現在）

区　分	寄付件数	寄付額
篤志者	46件	3,170,000円
卒業生	1,033件	22,012,918円
学生・生徒の父母	276件	6,990,000円
教職員等	298件	31,614,754円
法人・団体その他	49件	222,118,800円
合　計	1,702件	285,906,472円

＜募金についてのお申込み・お問い合わせ＞
学校法人国士舘 募金事務室
創立 110 周年記念事業募金委員会
東京都世田谷区世田谷 4-28-1
Tel：03-5451-8207

寄付のご案内

全国大会優勝、詐欺被害防止も

創立105周年記念式典で表彰

優秀表彰を受けた国際大会、全日本大会の優勝選手ら

受賞した人たち

優秀表彰

※主な大会のみ掲載

◆個人

【大学院】

○川原渓青（令和4年工学修士修了）2022パラ水泳春季記録会男子100㍍平泳ぎSB9優勝、男子200㍍個人メドレーSM10第2位ほか

○齋藤元希（工学修士2年）マデイラ2022世界パラ水泳選手権大会男子400㍍自由形S13第3位、混合4×100㍍メドレーリレー49ポイント第3位2022パラ水泳春季記録会男子400㍍自由形S13優勝、男子100㍍背泳ぎS13優勝第38回日本パラ水泳選手権大会男子400㍍自由形S13優勝、男子200㍍個人メドレーSM13優勝、男子100㍍自由形S13優勝、男子100㍍バタフライS13優勝2022ジャパンパラ水泳競技大会男子400㍍自由形S13優勝、男子50㍍自由形S13優勝

【大学】

○清水滉太（理工4年）2022パラ水泳春季記録会男子50㍍自由形S13優勝、男子400㍍自由形S13第3位ほか（体育2年）第98回日本選手権水泳競技大会アーティスティックスイミング競技デュエットテクニカルルーティン優勝、デュエットフリールーティン優勝

○岩崎尽真（体育1年）日本アーティスティックスイミングチャレンジカップ2022男子ソロテクニカルルーティン優勝、男子ソロフリールーティン優勝

○玉置菜々子（体育4年）2022日本学生陸上競技個人選手権大会女子100㍍H優勝

○奥村仁志（体育4年）2022オールスターナイト陸上秩父宮賜杯第62回実業団・学生対抗陸上競技大会男子砲丸投優勝

○田中裕大（体育3年）2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子73㌔級優勝

○岡田陸（体育2年）2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子90㌔級優勝

○中村太樹（体育2年）2022年世界ジュニア選手権大会柔道男子60㌔級優勝

○山口葵良梨（体育3年）2022年ヨーロッパオープン・ワルシャワ柔道女子63㌔級優勝

2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子63㌔級優勝

○五十嵐日菜（体育2年）2022年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子57㌔級優勝

○小林唄（体育2年）第98回日本選手権水泳競技大会アーティスティックスイミング競技デュエットテクニカルルーティン優勝、デュエットフリールーティン優勝

○岩崎尽真（体育1年）日本アーティスティックスイミングチャレンジカップ2022男子ソロテクニカルルーティン優勝、男子ソロフリールーティン優勝

○玉置菜々子（体育4年）2022日本学生陸上競技個人選手権大会女子100㍍H優勝

○奥村仁志（体育4年）2022オールスターナイト陸上秩父宮賜杯第62回実業団・学生対抗陸上競技大会男子砲丸投優勝

○田中裕大（体育3年）2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子73㌔級優勝

○岡田陸（体育2年）2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子90㌔級優勝

○中村太樹（体育2年）2022年世界ジュニア選手権大会柔道男子60㌔級優勝

○山口葵良梨（体育3年）2022年ヨーロッパオープン・ワルシャワ柔道女子63㌔級優勝

2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子63㌔級優勝

○五十嵐日菜（体育2年）2022年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子57㌔級優勝

○近藤隼斗（体育3年）2022年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会男子60㌔級優勝

2022年度全日本強化選手選考会柔道男子60㌔級優勝

2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子60㌔級優勝

○高橋翼（体育3年）2022年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会男子100㌔超級優勝

2022年度全日本学生柔道体重別選手権大会男子100㌔超級優勝

○竹市大祐（体育3年）2022年オーストリアジュニア国際大会柔道男子81㌔級優勝

○田中裕大（体育3年）2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子73㌔級優勝

○岡田陸（体育2年）2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子90㌔級優勝

○中村太樹（体育2年）2022年世界ジュニア選手権大会柔道男子60㌔級優勝

○山口葵良梨（体育3年）2022年ヨーロッパオープン・ワルシャワ柔道女子63㌔級優勝

2021年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子63㌔級優勝

○五十嵐日菜（体育2年）2022年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子57㌔級優勝

○堤さら（体育2年）KARATE1シリーズAカイロ2022女子組手50㌔級準優勝

○本島照英（体育1年）第1回全日本空手道団体形選手権大会男子団体優勝

○鈴木美咲（法1年）第60回全国防具付空手道選手権大会形競技一般女子優勝

○喜田純鈴（21ア4年）第75回全日本新体操選手権大会女子個人総合優勝、女子個人種目別（ボール・フープ・クラブ・リボン）優勝

第74回全日本学生新体操選手権大会女子個人総合優勝、女子個人種目別（ボール・フープ・クラブ・リボン）優勝

第13回アジア新体操選手権大会女子個人総合銀メダル、女子個人種目別フープ銀メダル、ボール銅メダル、クラブ銅メダル、国別対抗銅メダル

○山田愛乃（21ア2年）第74回全日本新体操選手権大会女子個人総合優勝

○稲木李菜子（21ア1年）第13回アジア新体操選手権大会女子団体総合銀メダル、女子団体種目別（リボン・ボール）銀メダル、女子団体種目別フープ5銅メダル、国別対抗銅メダル

○松下幸祐（体育1年）第17回男子ジュニアアジア選手権ハンドボール優勝

【高等学校】

○川端倖明（2年）令和4年度全国高等学校総合体育大会柔道男子90㌔級優勝

第77回国民体育大会柔道少年男子優勝

【中学校】

○村山颯（2年）第39回全日本ジュニア新体操選手権大会男子団体競技優勝

◆団体

【大学】

○サッカー部2022年度第46回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝

【高等学校】

○柔道部（男子）令和4年度全国高等学校総合体育大会柔道男子団体戦優勝

善行功労表彰

○後藤優里（文4年）令和4年7月8日世田谷区北沢2丁目5番2号先の路上で発生した救急事案において、心肺が停止し生命の危機に瀕していた傷病者に対し、迅速適切な容態観察と胸骨圧迫を行い、意識・呼吸及び脈拍を回復させ、救急隊に引き継いだ。

○田中大喜（体育3年）令和4年9月17日大田区のコンビニエンスストアにおいて、高齢女性が焦った様子で電子マネーを購入しようとしたため、詐欺に気づき、警視庁へ通報し未然に特殊詐欺被害を防止した。

感謝状贈呈

◆国士の家（贈呈の対象＝在学・在校生）

※「国士の家」は、本年度入学者をもつ世帯のうち、本法人が設置する大学等を卒業または在学中の2親等以内の親族をもつ世帯の称号

【大学】

○政経学部

鍵屋公一＝鍵屋陸人、成田卓司＝成田愛捺、飯田晴央＝飯田仁士、森本裕治＝森本貴大

○体育学部

鈴木俊之＝鈴木心優、上地勉＝上地花菜子・上地琉太、勝山起一＝勝山俊輔、石川敦史＝石川撰、狩野淳一＝狩野拓己、東迎裕次＝東迎いち裕、目黒正樹＝目黒航太・目黒優太、白樫守＝白樫拓、齋藤弘忠＝齋藤藍南、鈴木邦博＝鈴木菜々海、井上剛＝井上拓、佐々木利治＝佐々木敬伍、大久保誠司＝大久保幸司、小川剛史＝小川迅汰、亀森英政＝亀森匠輝・亀森凪紗、小松衛＝小松凜・小松蓮、高橋一之＝高橋寛・高橋翼、下新井田実＝下新井田琴望、熊坂小百合＝熊坂尉・熊坂光貴、本島千秋＝本島照英・本島里桜、青木貞志＝青木志光、徳弘大輔＝徳弘斐栁、岡本記代子＝本池嘉哉、川尻展弘＝川尻駿・川尻尋、山本貴子＝山本悠平・山本峻平、荻野浩明＝荻野征波、工藤博之＝工藤良、宮倉美幸＝宮倉惟斗、本宮裕之＝本宮侑樹・本宮昂樹、竹田成彦＝竹田柚希、三原廉仁＝三原麻媛・三原廉平

○理工学部

見城悦史＝見城きらり、二片雅之＝二片瑛士、齋藤章吉＝齋藤尊路

○法学部

根本健次＝根本理歩、後藤秋一＝後藤将太朗・後藤悠太朗、後藤普一＝後藤尚真

○文学部

吉川はるみ＝吉川泰正、高田のり子＝高田みつき、横山貴之＝横山花純・横山海渡（政経）

○21世紀アジア学部

遠山義宏＝遠山剛史、吉田直樹＝吉田匠吾、西川利晴＝西川瑛菜、久保建一＝久保遥

【高等学校】

西田康孝＝西田晴人、米谷豪祐＝米谷海・米谷陸（21ア）、浅野晶子＝浅野櫻、齊藤司＝齊藤百絵果、石川昌秀＝石川魁士、宮田脩平＝宮田緩寿、柴田正典＝柴田櫻子、先﨑晃＝先﨑梨乃・先﨑海翔（21ア）、山根裕二＝山根幹三郎・山根陽太郎（政経）、増本達哉＝増本駿哉、河田佳浩＝河田きな・河田未州（法）、鈴木薫＝鈴木美佳・鈴木泰伸（政経）、吉澤大＝吉澤美遥、長橋将佳＝長橋聡真、平井幸太＝平井太貴・平井雄太、松沼大輔＝松沼大樹・松沼愛、永井英典＝永井美咲・永井裕太（21ア）、矢沢健二＝矢沢涼夏・矢沢楓夏（政経）、椎橋英一＝椎橋孝太、菱倉実＝菱倉理沙、谷﨑淳＝加藤吏生・加藤吏羽

【中学校】

井上充生＝井上悠生・井上健生（高校）、桶谷美緒＝桶谷陽南斗・桶谷磨耶斗、河本丈治＝河本剛太朗、越田祐樹＝越田響、佐藤秀樹＝佐藤輝翼・佐藤光晟、土井啓史＝土井滉登・土井愛登、川端慎一＝川端倫育・川端倖明（高校）、櫛田浩徳＝櫛田浩次郎、権瓶功泰＝権瓶泰毅、冨田浩二＝冨田大和・冨田猛瑠（高校）、長野暁＝長野蒼大、七日市義邦＝七日市太朗・七日市さくら（高校）、鞭馬裕輝＝鞭馬清雅、名城創＝名城緩紀

◆高額寄付者

【団体】

みずほ証券株式会社、国士舘大学教育後援会、国士舘大学同窓会（敬称略）

永年勤続表彰

◆勤続40年

【教員・教諭】

朝倉利夫（体育学部）、鷲野正明（文学部）、田中哲夫（高等学校）

【職員】

古畑譲（町田校舎事務課）、川口雄大（多摩校舎事務課）、鷹取寛行（同）、伊敷ひろみ（監査課）、中野洋一（教務課）、山口和彦（授業支援課）、川崎千賀子（統合学部事務課）、宮川英之（学生・厚生課）、苫米地示路（同）、植田尚美（入学課・学生募集課）、小倉一訓（体育学部事務課）

◆勤続30年

【教員・教諭】

岡島建（文学部）、村田裕司（同）、中野謙介（高等学校）、東谷聖美（同）、馬場信悟（同）、馬場和子（同）

【職員】

遠藤克彦（授業支援課）、福井理香（大学院課）、田邉朋子（同）、大橋和久（学生・厚生課）、前田剛（高等学校事務室）

◆勤続20年

【教員】

辰野文理（法学部）、野津悌（文学部）、細越淳二（同）

【職員】

西山平夫（国際交流課）

リノベーション効果確認

朝吹研究室 脱炭素社会へ産学連携で研究

調査にあたった朝吹准教授（左から2人目）と3人の学生＝研究室で

理工学部建築学系の朝吹香菜子研究室は昨年、株式会社OKOSとともに既存建物のリノベーションによる脱炭素効果を評価し、12月に報道発表した。既存建物を同規模の新築に建て替えた場合との比較では、CO_2排出の84%、廃棄物の96%を削減することがわかった。これは、杉の木約6万2000本が1年間に吸収するCO_2に相当する。

調査対象となった都内の物件は、平成5年に竣工した社員寮をワークラウンジ付き賃貸マンションにリノベーションしたもの。本研究室の朝吹准教授は、「既存建物の部材一つ一つについて、修繕などにより使い続けられるかを丁寧に検討したことが、CO_2排出量削減率のさらなる向上につながっており、このサステナブルな取り組みの今後の展開に期待する」とコメントを寄せた。

調査に参加した朝吹研究室の学生3人は、「リノベーション事業には、環境・コスト面など複合的に魅力があると感じる。この研究結果が今後の新たなプロジェクトのきっかけになればいいと思う」と、本研究・調査に携わった喜びと期待を表した。

田原教授 次世代の人材育成へ活動

国際ピエール・ド・クーベルタン委員会

本学体育学部の田原淳子教授（近代オリンピック史）が副会長を務める国際ピエール・ド・クーベルタン委員会では、若い世代へオリンピズムやオリンピックムーブメントの理解を深めることを目的に、次世代のスポーツ文化の担い手となる人材の育成を目指し活動を行っている。

昨年11月にドイツ・ミュンヘンで開催された第13回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラムには、18カ国約60人の高校生が集い、ディスカッションやスポーツ・文化活動を通して交流した。日本からは、田原教授の呼びかけで参加の機会を得た国士舘高校の西村綾花さん（3年）ら5人が参加した。

また、昨年12月には、日本ピエール・ド・クーベルタン委員会主催のユースフォーラムが日本の高校生を対象に開催され、同校から4人の生徒が参加。講義や演習を通じてオリンピズムへの理解を深めた。国際フォーラム参加報告では西村さんが「異なる言語・文化の環境で相手の考えを理解し自分の考えを伝える貴重な経験ができた」と感想を述べた。

岡田名誉教授に文化庁長官表彰

岡田保良名誉教授がこのほど令和4年度文化庁長官表彰を受賞した。同表彰は、永年にわたり文化活動に優れた成果を発揮し日本の文化の振興に貢献した個人、または国際文化交流に貢献した個人を文化庁長官が表彰するもの。今年度は92の個人・団体が受賞した。

岡田名誉教授は、西アジアの文化遺産の調査研究および保存修復への協力や、国際イコモスでの世界遺産の審査経験などを生かし、文化遺産国際協力コンソーシアム副会長、日本イコモス国内委員会委員長を務めるなど文化遺産の保護と活用の取り組みで先導的役割を担っていることが評価された。

授賞式は昨年12月14日に東京・千代田区の如水会館で行われ、都倉俊一長官から表彰状と盾が贈られた。

世田谷区制90周年 区政に貢献 表彰

本法人の統括防火・防災管理者である福本正幸常任理事に対し、世田谷区より区政功労表彰が授与された。

これは、世田谷区が区制施行90周年の記念に区の発展に寄与した個人・団体に対し表彰したもので、防火活動に尽力し安全・安心のまちづくりに貢献したとして、昨年10月16日開催の記念式典で発表された。

このほか、瀬野隆常任理事と長谷川三雄名誉教授が、ボーイスカウト世田谷第25団（本学ローバークラブ）の設立および永年にわたり青少年の健全育成に尽力し、明るい地域づくりに貢献したとしてそれぞれが特別功労表彰を受賞した。

世田谷プラットフォーム 地震対応へ防災研修

災害対応計画について話し合う本学職員ら

令和4年度世田谷プラットフォームリスクマネジメント部会による防災研修が昨年10月27日、世田谷キャンパスで開催され、協定校5校（駒澤大学・昭和女子大学・成城大学・東京都市大学・国士舘大学）が参加した。

今回は「地震対応ワークショップ」として、本学防災・救急救助総合研究所の中林啓修准教授がファシリテーターを務め、東京都心南部を震源とした地震発生を想定し、発災直後から3日目までの災害対応計画を立てるグループワークを行った。各大学の職員らは、学内で起こりうる被害をイメージしながら、予測される対応業務を多角的にシミュレーションした。

最後には、検討した対応方針について発表を行い、それぞれの成果や課題を共有した。

発表後、中林准教授は「教職員の行動は、学生が社会に貢献していく際のロールモデルになりうる。今回できたことは自信に、できなかったことは改善への目標にしてほしい」と締めくくった。

職員18人 防災士取得

令和4年度職員研修の一環として防災士資格取得研修が行われ、職員18人が防災士を取得した。

昨年11月10日には世田谷キャンパスで報告会が執り行われ、出席した職員が一人一人研修の成果を報告した。

職員能力開発担当の福本正幸常任理事は「本学園は地域防災のリーダーを育てる防災教育に力を入れているが、学生を守る立場の教職員にあっても知識と技術を培う必要がある。努力の結果をうれしく思う」とねぎらいの言葉を送った。

防災士は特定非営利活動法人日本防災士機構による民間資格で、職員らは研修機関に認定されている本学防災・救急救助総合研究所による講義と実技講習を経て試験に臨み、受講者全員が合格を手にした。

自衛消防訓練 校舎別に実施

本学園職員で構成する自衛消防隊の校舎別訓練を昨年11月から12月にかけて世田谷キャンパスで実施し、各校舎に事務所をおく職員らが、自動火災報知機受信盤の操作方法、屋内消火栓や消火器の使用方法などを確認し、想定シナリオをもとに、通報、初期消火、避難誘導の一連の動きを訓練した。

参加者は、報知機発報時の各箇所教職員の連携方法や安全な避難誘導方法、必要な資器材など、不明点を出し合いながら各役割と課題を共有した。

本学園では、火災発生時に教職員が迅速で適切な対応が取れるよう法令に基づき自衛消防隊を編成し、定期的に防火・防災訓練を行っている。

文化財保全へ 大講堂展開催

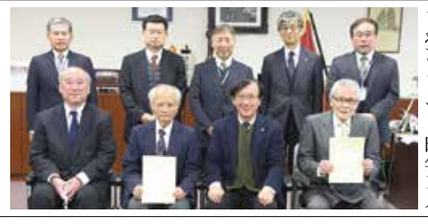
学生の解説を聞く見学者ら

国士舘創立105周年を記念する「徹底解剖！国士舘大講堂」展を、昨年10月26日から11月4日を会期に、世田谷キャンパスの国士舘大講堂で開催した。

会期中には、東京都主催の「東京文化財ウィーク2022」による大講堂の特別公開も実施し、事前申込で集まった約50人の見学者は学生らのガイドに熱心に耳を傾けていた。

また、楓門祭が催された11月2・3日には、2000人を超える見学者が訪れ、大講堂内の創立展を観覧。大講堂について親しみ、文化財保全への理解と関心を寄せる好機となった。

梅丘町内会へ感謝状


全員で記念撮影
前列右から、森副会長、佐藤学長、野武会長、梅丘まちづくりセンター木村浩規所長

ルール・マナーキャンペーンへの参加など学園行事に協力し本学に貢献されたとして、昨年12月19日、世田谷キャンパスで梅丘町内会に対し感謝状を贈呈した。

佐藤圭一学長ははじめに、「本学は地域に愛され、地域とともに歩む大学を目指している。日頃より、皆さまにご尽力いただき大変感謝している」とあいさつし、梅丘1丁目町内会の野武一郎会長と梅丘2・3丁目町内会の森和夫副会長にそれぞれ感謝状を授与した。

感謝状を受けた野武会長は、「毎年学生が入れ替わり、さまざまな形で影響を与えてもらっている。今後も継続して相互交流を行っていきたい」と話し、その後和やかに歓談した。

一冊いかが

理工学部1年　杉﨑　文哉

『風の中のマリア』　著者：百田　尚樹

「常識とは何だろう」。私はこの本を読み終わった後、そんなことをふと思わされました。この本の主人公であるマリアは働きバチ（ワーカー）として群れを支えているオオスズメバチのメスです。この作品はマリアが生まれてからのオオスズメバチの巣の様子が描かれています。

その中で特に私に影響を与えたのは、物語の途中で他の昆虫に出合う場面でした。ミドリシジミ、チャミノガ、オンブバッタと多種多様な虫たちが話し相手として登場します。そして、それぞれの虫が自身の紹介をすると同時に、皆口をそろえてオオスズメバチのワーカーであるマリアたちの生き方は奇妙で理解できないと言ってきます。

それもそのはず、マリアたちワーカーは他の昆虫たちとは違い、恋をして結ばれ、子を成すという考え方がなく、ただ巣の繁栄のために狩りをするだけの生物です。それらの言葉は決して悪気があって言っているものではなく、生き方やその昆虫特有の文化の違いから湧いてくる純粋な疑問の言葉です。

私はこの場面から、自身の価値観を絶対視してはいけないと考えるようになりました。「自分がそうだから相手もそう」ではなく「自分はそうだけど相手もそうなのか？」。当然のように聞こえるかもしれませんが当時まだ中学生だった私にとっては新たな価値観を芽生えさせるきっかけになりました。

その他にも、人間のように悩み、考え、行動するオオスズメバチの姿はつい昆虫であることを忘れさせる魅力を持っています。

生物好きの人はもちろん、そうでない人にこそ一読してほしい一冊です。

町田キャンパスグラウンド 人工芝張り替え完了

町田キャンパス・多目的グラウンドの人工芝張り替え工事が実施され、昨年10月に完了した。

今回の工事は、人工芝の張り替えに加え、新規得点板の設置と得点板収納倉庫の新設も行われた。

本整備に伴い、公益財団法人日本サッカー協会（JFA）の公認施設として再認定された。

多目的グラウンドは、主に体育学部の実習授業やサッカー部の活動場所として使用されており、インディペンデンスリーグや女子サッカーリーグ、高校サッカーの公式戦会場としても活用されている。

中高同窓会から寄付金受贈

学校法人国士舘は、このほど国士舘中学校・高等学校同窓会から寄付金を受贈した＝写真。

昨年12月6日、同会の松山國雄会長と坂本茂副会長、山崎伸副会長らは世田谷キャンパスを訪れ、大澤英雄理事長に教育・研究施設の総合整備を目的とした計100万円分の目録を手渡した。

目録を受け取った大澤理事長は「教育環境を一層充実させるため、有効に活用させていただく」と、感謝の意を伝えた。

新評議員に押切氏選任

昨年12月の理事会で、学校法人国士舘寄附行為第33条第1項第4号および第34条第1項により押切謙徳氏が学校法人国士舘評議員に新たに選任された。任期は令和5年5月31日まで。略歴は次のとおり。

押切　謙徳（おしきり・かねのり）78歳。

昭和43年東京大学法学部卒業、同45年司法修習終了、同48年カリフォルニア大学バークレー校法律学校修士課程修了。

同45年より各地の地方検察庁で検事を務め、同53年法務省刑事局付。その後、法務大臣秘書官、在米日本大使館一等書記官、法務省刑事局参事官などを歴任。同59年には東京高等検察庁検事としてロッキード事件控訴審を担当。

平成元年に退官し、弁護士登録。同3年から城山綜合法律事務所。

Make It Happen!

国士舘なら、きっとできる。

挑む壁が高いほど、大きな力が湧いてくる。
優れた倫理観と実践力を養い、
自ら考え行動する課題解決力を身に付け、
仲間と刺激し合いながら人間力を高める。
国士舘の強みを活かし、未来を拓け。
新たな可能性を信じて。
――夢は力だ。

Kokushikan 国士舘大学

彬子女王殿下 特別ご講義

人文科学研究科客員教授

ご講義に耳を傾ける学生・教職員ら

ご講義される彬子女王殿下

本学人文科学研究科客員教授の彬子女王殿下による特別講義が昨年11月10日、世田谷キャンパスのメイプルセンチュリーホール大教室で行われ、彬子女王殿下は、人文科学研究科および文学部の学生と教職員124人に「大英博物館のコレクションから知る日本のお茶の話」と題してご講義された。

大英博物館のコレクションから知る 日本のお茶の話

煎茶隆盛の明治期 海外は陶器に関心

ご講義では、江戸時代の外国人を招いた茶席で日本の伝統的な茶の湯ではなく中国式の煎茶が振る舞われていた出来事を端緒に、日本における煎茶の隆盛と外国人収集家による陶磁器コレクションとの関係について解き明かす形で進められた。

彬子女王殿下はまず、大英博物館に収蔵されている英国の古物収集家オーガスタス・ウォラストン・フランクスの陶磁器コレクションと、米国の動物学者であり陶器の収集家でもあったエドワード・シルヴェスター・モースがボストン美術館に寄贈した収集作品には、茶の湯で使われる陶器の茶入れや茶碗が多いという共通点を示された。

次に、江戸時代に隠元隆琦（いんげん・りゅうき）が日本に持ち込んだ煎茶が文人文化の広がりとも相まって知識人や商人を中心に飲まれるようになったとして彬子女王殿下は、国内でも煎茶器が作られるなど、明治期にかけて煎茶が浸透していった経緯を説明された。

ここで彬子女王殿下は、煎茶の隆盛による磁器の広がりに反して、外国人収集家の作品に陶器が多い点に着目され、蜷川式胤（にながわ・のりたね）による陶器の図説集『観古図説陶器之部』を紹介された。

明治維新による外国文化の流入と社会構造の変化により、日本人の中では古いものへの価値が下がる一方で、日本文化の魅力に着目した外国人向けに出版された観古図説は外国に盛んに輸出され、海外で陶器の価値が高まるきっかけとなった。

彬子女王殿下はこうした蜷川の功績に言及され、「煎茶の広がりに伴い日本人に顧みられなくなっていた陶器の価値を海外の収集家が見出し、日本美術品として海外で保存されていたからこそ、明治期の国難を経ても多くの美術品が失われることなく、今私たちの目を楽しませてくれている。海外の収蔵品を鑑賞する際に、その裏側にある物語に思いをはせる一助となれば」と締めくくられた。

ご講義後に彬子女王殿下は英国留学中のエピソードをお話になられ、「英国ではなぜか日本茶を上手に入れられなかった。日本で採れた食材は日本の水や素材で扱うのが一番負荷のかからない方法だと聞き、日本茶に無理をさせていたと気づかされた」と振り返られた。

三笠宮家の彬子女王殿下は、平成30年に本学人文科学研究科客員教授にご就任され、同年本学から名誉博士学位を贈呈。その後、毎年ご講義をいただいている。

秋葉講師 日本代表で報告

パリ会議 田原教授ら4人出席

欧州非政府スポーツ機構青少年部門（ENGSO Youth）による「持続可能な開発のためのスポーツ国際プロジェクト」の総括となる会議が昨年11月28・29日にフランス・パリで開催され、5月にセネガル・ダカール、9月に日本・東京と、3大陸にわたって行われたすべてのプログラムが終了した。

SDGsプログラム 3大陸実施を総括

28日の会議には本学から体育学部の田原淳子教授と秋葉茂季講師、防災・救急救助総合研究所の曽根悦子講師、職員の久保田義衛さんが出席。本プロジェクトの成果発表の中では、曽根講師が日本を代表してダカール研修会の感想を述べ、貴重な体験を振り返った。また、基調講演やパネルディスカッションを通してメガスポーツイベントの持続可能性とレガシー、ユースの役割について改めて認識を共有した。

29日には、プロジェクトの参加団体による総括パートナー会議が行われ、9月の東京研修会後に研修の成果として各国で実践された持続可能な取り組みについて報告された。日本からは秋葉講師が、学園祭での研修会の報告と参加型のSDGsアイデアツリー企画を紹介した＝写真。

本プロジェクトは、若年者に向けたスポーツと教育に関するプラットフォームの構築などを図るため令和2年にスタート。4カ国5団体のユースリーダーらが、スポーツを通じたSDGsについて、知識を深め、実践力を養った。

エジプト救急救命士研修

修了式 駐日大使も出席

4期40人学ぶ

修了式であいさつするアブバクル大使。右は佐藤学長

日本とエジプトの円借款貸付契約による人材育成事業「エジプト・日本教育パートナーシップ（EJEP）」（保健分野）を受けた「病院前救急医療研修プログラム」の研修が、昨年10月22日から8週間にわたり行われ、エジプトの救急医療現場に従事する救急救命士10人が参加した。

研修は本学防災・救急救助総合研究所が担当し、プログラムは、講義・実習のほか、東京消防庁の視察や医療機関での現場実習、本学を含む救急救命士養成機関の見学など、フィールドワークも多く取り入れた実践的な内容で、日本における病院前救急医療の指導法などを多岐にわたり学んだ。

研修最終日となる12月16日には世田谷キャンパスで修了式が行われ、佐藤圭一学長をはじめ防災・救急救助総合研究所の島崎修次所長のほか、駐日エジプト大使館のモハメド・アブバクル大使ら大使館の関係者などが列席し、佐藤学長から研修生に修了証が手渡された。

修了式後には研修生の最終プレゼンテーションが行われ、エジプト国内での救急医療システム構築に向けたさまざまな方策が発表された。

本プログラムは、平成28年に締結されたEJEPに基づき、エジプトと本学が業務委託契約を結び実施したもので、平成30年の開始以降4期にわたり、合わせて医師10人、救急救命士30人を受け入れた。今回で一連のプログラムが終了した。

カンボジアにも協力

来日研修や現地指導

小グループに分かれ模擬訓練を行う参加者ら

独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業「カンボジア救急医療に関する人材育成体制強化プロジェクト」の一環で、昨年12月24日から30日にかけて防災・救急救助総合研究所の研究員3人がカンボジアを訪れ、救急医療従事者を主な対象としたワークショップを行った。

プノンペン・国立クメールソビエト友好病院で行われた3日間のワークショップには国立3病院および市内の医師や看護師、内務省の医師など延べ43人が参加。心肺蘇生トレーニング、止血や徒手搬送などの手技トレーニング、スポーツ競技中の応急救護についての講義などを行い、最終日にはシナリオを用いた想定訓練を実施した。

本プロジェクトは、カンボジアにおける救急医療人材の開発・強化を目的としたJICAの草の根技術協力事業として昨年3月からスタートした。

12月中旬にはカンボジア保健省のスタッフが訪日し日本の救急医療関連施設を視察しており、今後も現地での指導者育成などを通して、持続可能な救急医療人材育成体制の整備に貢献していく。

経営者に学ぶ

講師は敏腕女将さん

講演する宮崎氏

経営者による講演会を定期開催する経営学部の専門科目「優良中堅・中小企業研究B」で昨年10月19日、神奈川県秦野の鶴巻温泉にある元湯陣屋の女将・宮崎知子氏が、株式会社陣屋および株式会社陣屋コネクトの経営者として登壇した。

宮崎氏は、経営改善のために多業種化、基幹システムの自社開発、IoTの活用による顧客満足度向上などに取り組むことで高付加価値化を短期間のうちに実現させた実績を、具体的なエピソードを交えて説明した。

学生らは宮崎氏の話を食い入るように聞き入り、経営者として現状を的確に把握する観察眼と、改善点を見つけて改革をする実行力、さらに新しい可能性を捉える力といった経営手腕を発揮し続けている宮崎氏の姿に、大きな刺激を受ける機会となった。

八潮市に政策提言

「地場産業」で12案

埼玉県八潮市と本学政経学会が共催する「第4回社会連携プレゼンテーション大会」が昨年11月28日、世田谷キャンパス5号館5303教室で開催された＝写真。本学政経学部の教員や学生約130人に加え、審査員として同市商工会青年部の担当者が出席したほか、同市の職員がオンラインで参加した。開会にあたっては大山忍市長がビデオメッセージを寄せ、学生を激励した。

本学と包括連携協定を結ぶ八潮市への政策提言として、政経学部の学生が八潮市や自治体行政への企画立案とプレゼンテーションを行う本大会。今回は、「社会連携と地場産業および地場産品」をテーマに12のゼミが地域経済の活性化に資する提案を発表した。

地場産品を活用したイベントの開催、シェアサイクルの導入、子ども向け遊戯施設の設置など実地調査をもとに構想した政策など趣向を凝らした提案に対し、担当者や教員らによる活発な議論が繰り広げられた。

介護殺人の量刑争点

オンデマンドで配信

模擬法廷室で収録した映像を編集して配信した

模擬裁判を開廷

本学法学会主催の第32回模擬裁判が、昨年12月3日から17日にかけてオンデマンド配信で行われ、法学部1年生が視聴した。

テーマは「介護殺人と量刑」で、悲劇的な犯罪に対する罪の重さについて、被告人の責任能力と量刑を争点に、裁判員裁判の形で検討が行われた。

まず、介護殺人の現状と刑法・刑事手続きの基礎知識、事件の概要と論点についての解説が行われた後、裁判員裁判の流れに沿って法廷での手続き映像が流れ、最後には裁判官による判決が言い渡された。

実行委員長を務めた田尻巴奈さん（3年）は、「広い視点で捉えることの重要性を体感した。警察官を志すにあたって得るところが多かった」と振り返った。

模擬裁判は本学法学会伝統行事の一つとして昭和43年以来、法律討論会と隔年で開催されている。担当教員の指導のもと学生による実行委員会が企画・運営しており、学生が法的思考力を身に付ける実践学修の機会としている。

チベット問題に注目

比較法制研究所講演会

比較法制研究所主催公開講演会「チベット問題の本質と世界の中の日本」が昨年11月2日、世田谷キャンパス34号館B301教室で開催され、学生・教職員・一般参加者の約120人が対面とオンラインで聴講した。

講師は国際政治学を専門とする拓殖大学国際日本文化研究所客員教授のペマ・ギャルポ氏で、チベット出身で日本に帰化した立場から、中国の侵攻の歴史や今後の国際情勢、QUAD（日米豪印戦略対話）の役割について講演した。

ペマ氏は「戦争を回避するためには、力に対して対応できる力を持つことが必要で、仲間を作って牽制するのも有効な方法」と持論を述べた。その上で、「皆さんは今日聞いたことに疑問を持ち、自分で調べ、真実は何かを確認してほしい」と話した。

卒業生ら登壇

キャリアデザイン2

異例の若さで本部長

自らの手法を語る新森氏

21世紀アジア学部2年生の必修科目「キャリアデザイン2」では、経営者、スポーツ選手、伝統芸能に携わる研究者など、学部の学びに関わりの深い多彩なゲストを講師に招き講演会を行っている。在学生にとってはより親しみ深い卒業生も登壇し、体験談を交えた人生設計のためのアドバイスを送っている。

昨年12月23日には、株式会社IDOM CaaS Technologyで本部長を務める新森亮氏（平成23年卒）が講演。異例の若さで本部長に就任した過程やスキルアップのために入社以降実践している手法などを紹介し、「強い意志や信念をもって自分自身が選択した道を貫いてほしい」とエールを送った。

「日本音楽」を考察

21世紀アジア学シンポ

教室に響く箏の音色に聞き入る学生ら

21世紀アジア学研究所は昨年12月16日、「21世紀の日本音楽」のテーマで、講師にフェリス女学院大学名誉教授の秋岡陽氏、宮城道雄記念館資料室室長の千葉優子氏、箏と十七弦箏演奏家の市川慎氏を迎え、町田キャンパス3030教室でシンポジウムを開いた。21世紀アジア学部の学生約200人が受講し、学外からの受講者にはオンライン配信も行われた。

秋岡氏は「日本の近代化と西洋音楽導入の軌跡」と題し、開国以降、日本人が受容した西洋音楽の形態（軍楽、讃美歌、唱歌）を解説するとともに、グローバル化とインターネットの普及が音楽に与えた影響を中心に論じた。

千葉氏は「箏曲にみる国際化の流れ」と題し、「春の海」の作曲・演奏家として知られる宮城道雄が生きた時代背景と、西洋音楽の要素を取り入れ箏の改良にも取り組むなど邦楽の国際化につなげた足跡を宮城研究の第一人者ならではの視点で紹介。伝統と革新の融合、他者の価値を認める発想の重要性を訴えた。

市川氏は箏と十七弦箏の違いや曲の成り立ちを解説した後、3曲を披露。和洋を問わない弦楽器に共通する力強く繊細な音色で会場を魅了した。

体育・スポーツ科学学会講演会

外傷と障害の違い学ぶ

満員となったパルテノン多摩大ホール

令和4年度体育・スポーツ科学学会講演会が昨年12月15日、東京・パルテノン多摩大ホールで開催され、体育学部の学生約1000人が参加した。

今回は、杏林大学附属病院整形外科医の林光俊氏を講師に招き「夢をあきらめない～学生アスリートの傷害予防とコンディション管理～」と題し、講演が行われた。

林氏は、スポーツ外傷とスポーツ障害の違いについて説明し、「将来指導者になる人も多いと思うが、けがについて正確に理解することが必要」と呼びかけた。

さらに、「スポーツ選手にけがはつきものだが、休む勇気を持ち、けがとうまく向き合ってほしい」と、メディカルトレーナーとしての経験を踏まえ学生アスリートにアドバイスを送った。

本科目は、将来を見据えた学生生活を具体的に描くことを目的に、毎年開講している。

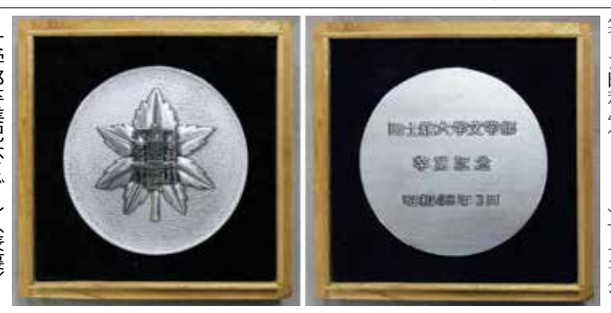
国士舘史資料室だより

○ 48 ○

50年前の卒業記念品

新年を迎え、本年も卒業式の季節が間近となった折柄、今回は新たに収集した昭和48（1973）年3月の卒業記念品とともに、50年前の卒業式の様子を紹介しよう。

資料は「卒業記念」と箔押しされた木箱入りのメダルで、直径70ミリ、厚さ5ミリ、重量167グラムの錫製と思われる。メダル表面に楓葉（もみじ）の大学校章がかたどられ、裏面には「文学部卒業記念」などの刻印が見える。第4回文学部卒業生への記念品として制作されたもので、3月10日の卒業式で配付されたものであろう。


文学部卒業記念メダル（表裏）

この卒業式は、恒例であった10号館5階大剣道場を会場として、大学・短期大学・高等学校・中学校の合同で挙行されたが、直前の1月26日に創立者柴田德次郎が長逝したことから、2月3日の学園葬の挙行を経て大きな変化のなかで迎えた学園行事となった。もっとも昭和42年以降、柴田德次郎は闘病のため長期にわたって公務にほぼ携わっておらず、不在の間は副学長である柴田梵天が代理として中心的な役割を担っていた。このため没後に総長を引き継いだ柴田梵天のもとで迎えた卒業式は、慌ただしくも例年と変わらずスムーズに挙行された。

定刻10時に開式した卒業式の次第を列記しておこう。開会の辞、国歌斉唱、教育勅語奉読、学位記・卒業証書授与、教員免許状授与、優等賞授与、皆勤賞・精勤賞・寮生賞・後輩善導賞・功労賞・部外賞の各授与、総長式辞、父兄代表謝辞、在校生送辞・卒業生答辞、卒業生記念品贈呈、舘歌斉唱、蛍の光斉唱、仰げば尊し斉唱、聖寿万歳・国士舘万歳、閉会の辞となり、11時20分頃に閉式となった（同年2月13日「会報」実施計画）。

このうち式辞で総長柴田梵天は「前途は必ずしも平坦な道ばかりではありません」とし、社会の門出に次の二歌を贈った。ひとつは故德次郎作の「足は地に心は天に世を救い、国を興さん道にいそしめ」であり、二つ目は近世後期の歌人・伴蒿蹊（ばん・こうけい）の「末ついに海となるべき岩水も、しばし木の葉の下くぐるかな」であった。後者は時の首相・田中角栄が好んだ歌としても知られていた。

また式中、故德次郎の妻喜代が登壇し「万一のことがあった場合は、はなむけの言葉を伝えるようにと申し残しましたので」として「卒業生諸君、いつとき体を大切にして明日の日本のために大いに頑張ってほしい」などと、生前用意された祝言を読み上げている。さらに式後には、設立されたばかりの「柴田德次郎奨学会」から第1回目の同奨学会賞が、大学院に進学する工学部卒業生に贈られた。また教室等での「謝恩会」も学部ごとに催されている。

この年の卒業生も学部ごとに制作された記念品を胸に、新たな門出を迎えたのであった。

（国士舘史資料室　熊本　好宏）

◆資料提供のお願い◆

国士舘に関する資料や情報のご提供をお願いしています。例えば講義ノートや実習道具、思い出の写真・アルバムなど、学生時代の資料をお寄せください。

【ご連絡先】
世田谷キャンパス
柴田会館内
国士舘史資料室
TEL 03(3418)2691

マスコミを追う

【新聞】
●子ども服などのリユースに各自治体が取り組んでいることについて、政経学部の森朋子講師のコメントが掲載（東京新聞11月28日）

【テレビ】
●「林修のニッポンドリル」に理工学部の津野和宏教授が出演し、首都高速について解説（フジテレビ1月12日）
●「ニュースウオッチ9」において、NHKと共同で実施した沖縄県内の「国民保護」に関するアンケート調査について、防災・救急救助総合研究所の中林啓修准教授がコメント（NHK総合12月12日）
●「グッド！モーニング」において、ソウル繁華街で起きた大規模雑踏事故に関し、群衆での対処方法について、体育学部の田中秀治教授が解説（テレビ朝日11月1日）

【WEB】
●リベラルアーツをテーマにした企画番組「サブ・アカデミア」において、政経学部の生方淳子教授が出演（フライヤー12月14日）

【在学生】
●「情熱大陸」に柔道部の斉藤立選手（体育3年）が出演（毎日放送10月16日）

【卒業生】
●株式会社D&Fproject提供の水質管理サービス「プールマイスター」がグッドデザイン賞を受賞し代表取締役を務める福島大輔さん（平成14年体育学部卒）のコメントが掲載（サンケイスポーツ10月8日）

先輩の実例に学び 就活 体験して新たな視点

教員採用試験合格報告会

具体例が貴重

具体的なアドバイスを送る報告者

令和4年度教員採用試験合格体験報告会が昨年12月13日、世田谷キャンパス34号館B303教室で実施され、教職を目指す学生約30人が参加した。

報告会では、今年度の教員採用試験に合格した学生6人が登壇し、これまでの勉強法や受験した自治体の採用試験の特徴、傾向、対策方法などを紹介。合格者からは「教育実習期間は自習時間の確保が難しく、勉強は長期的な視点でやるべき」「教員志望学生に向けた自治体による研修制度がある」などの具体的なアドバイスがあったほか、「教員採用試験は長期戦。今すぐにでもできることを始めてほしい」などの熱いメッセージが送られた。

本学では進路を決めた4年生による報告会をキャリア形成支援センターや各学部でも開催しており、1～3年生に就職活動の実態や内定までの過程を伝えることで就職活動に対する意識の向上につなげている。

個人面接のアドバイスを受ける学生

企業の採用担当者が指導

面接体験セミナー

本学キャリア形成支援センター主催の「面接体験セミナー」が昨年12月3・4日に、世田谷キャンパスで開催され、就職活動を控える3年生約50人が参加した。

セミナーでは、企業の人事採用担当者を講師に招き、採用選考で特に重要視されているグループディスカッション・集団面接・個人面接対策を中心に9班に分かれ実習を行った。学生は事前に作成した履歴書をもとに、本番さながらの模擬面接に取り組んだ。

面接練習後の座談会では、学生が司会進行しながら、会社選びのコツや印象に残った面接など、さまざまな話題で講師と歓談した。

講師は、「自身の人生で大切にしたいキーワードを固めて、自己分析をしながら企業選びをしてほしい」「持っているスキルや経験を生かし、知らない人にどう自分の物語を伝えるかが重要」と学生に呼びかけた。

参加した学生からは「自身の面接に対して評価を受ける機会はあまりないため、客観的な意見が聞ける貴重な経験になった」などの感想が聞かれた。

卒業生奮闘 この人 ㊱

株式会社中国放送（RCC中国放送）アナウンサー 伊東（いとう） 平（たいら）さん（28歳）

開局70周年を迎えたRCC中国放送は、広島で初のラテ兼営民間放送局で、根強いラジオファンが多いことで知られる。本学卒業生の伊東平さん（平成28年体育学部卒）がアナウンサーとして採用されてから4月で8年目を迎える。スポーツ実況を中心に、日々伝える仕事と向き合う伊東さんに、アナウンサーを目指した経緯を伺った。

「救急救命士」資格持つアナウンサー

長野県出身の伊東さんは、信越放送の元アナウンサーだった祖父、地元でフリーアナウンサーとして活躍する母、番組制作に携わるフリーディレクターの父という、放送関係一家で育つ。自身は小学4年から高校まで野球に打ち込み、小学校の卒業文集では「野球中継の実況・解説者になる」と夢を描く少年だった。

転機が訪れたのは中学3年のとき。けいれんを起こして救急車で運ばれた伊東さんは、もうろうとする意識のなか、初めて死が頭をよぎったという。「そばで励まし続けてくれた救急救命士への安堵感は今でも覚えていて、自分も誰かに勇気を与えられる職業につきたいと思いました」。後の進路を決めるきっかけとなる出来事だった。

放送局社屋の前で笑顔を見せる伊東さん

◆在学中に進路を変更

救急救命士を目指して体育学部スポーツ医科学科に入学後、仲間に恵まれ充実した生活を送る伊東さんに2度目の転機が訪れたのは2年を過ぎた頃。「海難救助訓練や救急車同乗などの実習を経験するうち、救急救命士という仕事の実状や認知度など、もっと知らせるべきことがあるのではという想いが芽生えました」。

大学3年のとき参加した「信州若者1000人会議」では、さらに気持ちが後押しされることに。渋谷で開催されたそのイベントで、司会者として堂々と話す女子学生の姿に感銘を受けた伊東さんは、「次の日にはアナウンススクールへ申し込みに行きました」と当時を振り返る。

◆大学での学びが現場の役に

突然の進路変更に戸惑った仲間もいた。だが、大学での学びは今の職場でも生かされている。平成30年の西日本豪雨の際、取材ではサイレンの音を聞き分けて現場の状況を推察した。消防隊員が持つ資器材や動きを見て、いま救助がどの段階にあるのか予測もできた。「アナウンサーとして推測で発言はできませんが、推測をもとに準備できることはたくさんありました」と伊東さん。

「どんな学びも生かせる場所がある」

今では大学時代の仲間が、各地の消防の最前線で働いている。「仲間の活躍を一歩引いた立場で伝えることができたら、それは私にしか出せない言葉だと思います」。

◆実況は常に〝受験勉強〟

現在はスポーツ実況アナウンサーとしての成長を会社から期待されている。「昨年はテレビとラジオで野球中継を約20本。その他にサッカーの開幕戦やハンドボールの試合、女子テニスの世界ツアーの実況も任されました」。得意な野球ならまだしも、その他のスポーツ実況にはどう対応するのだろう。

「ルールも選手のデータも、すべて一から勉強です。過去の実況を聞きこみ、文字に起こして再確認し、この間にどのくらいの言葉を詰め込むなどしゃべり込みの練習もします。野球ならボールの飛び方を、見る角度を変えて検証し、打ち方と飛球の関係を目と耳の感覚で擦り合わせることも」。

そんなアナウンサーの仕事を「どろくさい」と伊東さんは表現する。「弊社は伝統のある放送局です。球場での立ち居振る舞い、声をかけるタイミングやアプローチの仕方など、先輩の背中を見て学びました。頻繁に練習場へ足を運び、選手を観察することもそのひとつ。そこから独自の着目点をいくつ見つけられるか、信頼関係をいかに築くかなど、選手と同じくらい汗をかきながら情報収集し、実況資料としてまとめます」。取材ノートには、地道で丁寧な聞き込みの跡がしっかり残っている。

◆学生時代は大いによそ見を

国家資格を取得したのにもったいないと思ったことはないのか。

「救急救命士は素晴らしい仕事です。ただ、僕はやりがいを別のところに見出しただけ。それは、いつかアナウンサーとしてこの職業にスポットを当てることでもあるし、この先誰かを救えることができれば、資格をとった価値も十分にあると思います」。

野球で身に付けた粘り強さ、大学で培われた根性、さまざまな場面での学びはすべて無駄ではないという。「どんな学びでもアイデア次第で生かせる場所が広がります。学生のうちはいろんなことに挑戦しながら大いによそ見をすればいい。周りを見ないと進行方向は定まらないものです」。

無限に広がる未来を、自らの行動力と実践力で切り拓いた伊東さんだからこそ言えるメッセージではないだろうか。

本学ホームページでも公開しています。

地域と一体 学外活動

梅丘商店街でスタンプラリー

政経学部 石見豊ゼミ

参加した子どもに風船をプレゼントする学生

梅丘商店街主催のハロウィーンイベント「第15回キャッツ ハロウィン」が昨年10月30日、小田急線梅ヶ丘駅前の梅丘商店街一帯で開催され、政経学部・石見豊ゼミの学生約20人がスタンプラリーを企画・運営しイベントを盛り上げた。

都市行政を学ぶ石見ゼミでは、地域での取り組みを実践的に学ぶためイベントの実行委員に加わり、2年生が中心となって地域住民とともに準備を進めた。

当日は、学生らがスタンプラリーの各ポイントでクイズを出題し、ゴールでは参加した子どもらに風船をプレゼントした。

ゼミ長の魚本紗雪さん（4年）は、「地域イベントの運営に携わる経験は初めて。普段通学で通る商店街に多くの人が集うところを目の当たりにし、地域の活性化につながるイベントの可能性を改めて感じた」と話した。

狛江市の未来戦略 提案

理工学部 二井研究室

模型を前に狛江市職員と議論する学生ら

理工学部まちづくり学系の二井昭佳教授は、令和3年11月から4年10月にかけて、狛江市の中堅・若手職員で構成される中期戦略検討チーム「未来戦略会議2021―22」のアドバイザーとして、多摩川エリアのまちづくりについて提案やアドバイスを実施した。

検討にあたって狛江市職員とともに実施したフィールドワークやグループミーティングには二井研究室の学生も協力し、大学でのまちづくりの学びを生かした模型作成や提案を行った。

検討の成果として昨年11月に市が発行した『多摩川エリア・未来デザインノート』には、和泉多摩川駅周辺と西河原公園周辺およびそれらをつなぐネットワークについて具体的な提案が掲載されている。

冊子で使用されているマップや模型は二井研究室が作成したもので、冊子の図面は大学院工学研究科建設工学専攻のの田口凌介さん（修士2年）が担当した。

世田谷駅前で食品ロス啓発

経営学部・田中史人ゼミ

お菓子の販売をしながらスタンプラリーカードを配布する学生ら

経営学部・田中史人ゼミで世田谷の地域活性化に取り組むせたまち1班では、食品ロス削減の啓発を通じた地域振興を目指し、世田谷駅前商店街で昨年10月29・30日に開催された「ミニ楽市楽座」で、訪れた買い物客にスタンプラリーカード約500枚を配布した。

カードにはSDGsクイズのほか、近隣飲食店の地図とSDGs達成に向けた取り組みが紹介されており、期間中に2店舗を訪れて注文した料理を完食し、クイズに正解すると景品を受け取ることができる仕組み。

リーダーの平田頌一郎さん（3年）は「体験型の取り組みを通してSDGsの理解と食品ロスへの意識を浸透させ、近隣店舗に立ち寄る機会を作ることで地域活性化にもつながれば」と期待感を示した。

学園祭 露店も復活

カメラに笑顔を向ける学生ら（楓門祭）

昨年11月2・3日に世田谷キャンパスで楓門祭が、同13・14日に多摩キャンパスで多摩祭が開催された。今年度は実行委員らが中心となって独自のガイドラインを作り、一般来場や飲食露店の出店を実現させた。

楓門祭

楓門祭のテーマは、「With」。学内・地域社会とのつながりを大切にしたいという想いと学園祭に関わるすべての人で楓門祭を作り上げようという思いを込めた。

当日は、飲食ブースが多数並び、教室では各団体の企画展示などが行われた。また、ステージ企画では、ダンスや各クラブによるパフォーマンスをはじめ、お笑いライブなど華やかなイベントでキャンパスは終日にぎわいをみせた。

多摩祭

レスリングを体験する小学生（多摩祭）

多摩祭では、各クラブによるパフォーマンス披露やボディービルコンテストなどが行われ、それぞれが個性あふれる演出で会場を沸かせた。

また、近隣の小中学生を対象としたスポーツ教室も行われ、子どもたちは大学生と交流を深めながらさまざまなスポーツを体験した。

救急救命技術選手権 堂々13回目の優勝

優勝を喜ぶ学生ら

全国救急救命士教育施設協議会が主催する令和4年度東日本学生救急救命技術選手権が昨年11月6日に本学多摩南野キャンパスを会場に開催され、本学が13回目の優勝を果たした。

大会は、医療系学部を持つ大学・専門学校など9校が参加し、内因性、外傷、心肺停止、トリアージ、国家試験想定問題など全6種目の評価で順位を争った。

本学は体育学部スポーツ医科学科4年生の選抜チーム（6人（鈴木凪さん、内堀舜基さん、岡蒼一郎さん、井出涼太さん、市川義人さん、柳澤初実さん）で大会に挑み、3種目で1位の成績を収め、見事総合1位に輝いた。

大会終了後、チームリーダーの鈴木凪さんは「改善できる点もあったが、入念な準備が実を結んだ」と優勝を喜んだ。

当日は同学科の学生約40人が各チームのチューターや会場設営などで大会運営をサポートした。

留学生スピーチコンテスト 5人が入賞

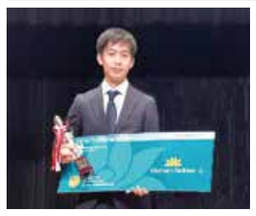
受賞した5人

国際交流センターが主催する本学の外国人留学生を対象とした第11回日本語スピーチコンテストが昨年11月3日、世田谷キャンパス34号館B301教室で開催された。

今回は3学部・2研究科より7人の外国人留学生（国籍は中国3人・韓国2人・モンゴル1人、タイ1人）が、「私のターニングポイント」をテーマに、それぞれ自身に影響を及ぼした出来事をスピーチした。

教員による審査の結果、最優秀賞は「日本で新しくできた目標」と題してスピーチした張幼林さん（21ア3年）に決まった。優秀賞には安貞雨さん（同3年）、優良賞には張山峰さん（理工2年）、審査員特別賞には政治学研究科のナムジルドルジ ナランツヤさん（院修士2年）と救急システム研究科のドワンボン テマニーさん（院博士3年）が選出され、入賞者に盾と記念品が贈られた。

ベトナム語スピーチコンテスト 清水さん2年連続最優秀賞



神田外語大学主催「第16回ベトナム語スピーチコンテスト」が昨年10月29日に開催され、清水輝さん（21ア3年）が、見事最優秀賞に選ばれた＝写真。同賞受賞は昨年に続き2度目。

コンテストには国内の大学・高校など計7校から20人が出場し、詩の朗読部門とテーマに沿ったスピーチ部門でベトナム語を披露した。

ベトナム人が多く住む地域で暮らすという清水さんは、語学の授業のほか近隣のベトナム料理店に通い実践的な会話力を鍛えた。出場したスピーチ部門では、料理店でのエピソードやベトナムの有名な詩などを交えて日本とベトナムの人的交流の重要性を訴えた。

清水さんは受賞後、「日本に住むベトナム人のために自身の語学力を生かしたい」と喜びを表した。

また、「親がベトナム人の生徒・学生のスピーチ部門」では石川優美さん（同1年）が1位となった。

心肺蘇生動画で最優秀賞

賞状を受け取る土井さん

日本蘇生学会が主催して行われた第4回心肺蘇生法普及動画コンテストで、本学体育学部スポーツ医科学科の有志からなる「国士舘大学フピード」が最高位となる最優秀代表理事長賞を受賞した。

本コンテストは医系学生を対象に、心肺蘇生に関する啓発プロモーション動画を制作、一般の方に心肺蘇生の関心と理解を深めることを目的に平成29年から開催されている。

動画を作成したのは、3年生9人と1年生1人の計10人で、小児・乳児に対する心肺蘇生法をテーマに約2カ月間かけ動画を制作した。

昨年11月4日には熊本市の市民会館シアーズホームで授賞式が行われ、代表して出席した3年の鈴木捺音さんと土井江玲菜さんに対し表彰状と記念品が授与された。制作した動画は日本蘇生学会のホームページで見ることができる。

著書紹介

鉄道高架橋デザイン
共著　二井昭佳（理工学部教授）
発行　千倉書房
価格　3300円（税込）

思想史講義【戦前昭和篇】
共著　織田健志（政経学部教授）
発行　ちくま新書
価格　1100円（税込）

人物で学ぶ日本古代史3 平安時代編
共著　仁藤智子（文学部教授）
発行　吉川弘文館
価格　2090円（税込）

国士舘大学

令和5年度 入学者選抜要項概要（2023年度）

※詳しくは、本学のホームページ上にて公開中の『令和5年度（2023年度）入学者選抜要項』で必ず確認してください。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、入学志願者の進学の機会を確保し、一人一人が安心して受験に臨めるよう、令和5年度入学者選抜について本学のホームページに掲載しています。「新型コロナウイルス感染症に関する本学入学者選抜の対応について」を必ずご確認ください。

◆問い合わせ先
国士舘大学入試部
TEL：03-5481-3211
E-mail：ad1@kokushikan.ac.jp
◆資料請求
https://www.kokushikan.ac.jp/admission/

国士舘大学　令和5年度入学者選抜日程

一般選抜（中期選抜）

インターネット出願期間	2月3日(金)～2月9日(木)
試験日	2月20日(月)　全学部 12会場：水戸・高崎・大宮・柏・津田沼・池袋・世田谷・立川・横浜・小田原・静岡・新潟
合格発表日	2月28日(火)
入学手続日	一括手続完了日：3月6日(月)

一般選抜（後期選抜）

インターネット出願期間	2月13日(月)～2月17日(金)
試験日	3月2日(木)　政経学部・体育学部（A日程）(注)・理工学部・文学部・21世紀アジア学部（A日程） 3月3日(金)　体育学部（B日程）(注)・法学部・21世紀アジア学部（B日程）・経営学部 (注)体育学科・武道学科・こどもスポーツ教育学科は実技試験を含む
合格発表日	3月11日(土)
入学手続日	一括手続完了日：3月17日(金)

一般選抜（大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期）

インターネット出願期間	2月13日(月)～2月17日(金)
実施学部	政経学部・体育学部スポーツ医科学科・理工学部・法学部・文学部・21世紀アジア学部・経営学部
試験日	大学入学共通テスト ※大学入学共通テストの願書を出していない者は、出願できません。 ※本学では、国語の古典（古文・漢文）は課しません。 ※本学では、個別学力検査等は実施しません。
合格発表日	3月11日(土)
入学手続日	一括手続完了日：3月17日(金)

参考〔本学の併願検定料の仕組み〕
①中期選抜（2月20日）・後期選抜等（3月1日～3月3日）の各選抜制度内は、検定料40,000円で併願できます。（35,000円/1受験）（第二志望登録は検定料が無料です）
②大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期は、検定料20,000円で複数学部・学科等を併願できます。（15,000円/1受験）

初出場 5試合すべて一本勝ち

斉藤選手マスターズ制覇

世界選手権100キロ超級代表に内定

崩上四方固で一本を奪う斉藤選手＝国際柔道連盟提供

柔道陣続々名乗り

マスターズ

昨年12月20日から22日までイスラエル・エルサレムで開催の柔道・マスターズ大会で斉藤立選手（体育3年）が100キロ超級に出場し、初出場初優勝の快挙を果たした。

世界ランキング上位者らで争う本大会は、各国の強豪選手が多数参加。1回戦から登場した斉藤選手は初戦から危なげなく勝ち上がると、迎えた決勝では世界ランキング1位で昨年の東京オリンピックにも出場したタジキスタンのテムル・ラキモフ選手と対戦。終始積極的な攻めをみせ主導権を握ると、試合終了間際に相手選手を抑え込んで一本勝ち。全5試合一本勝ちの圧巻の内容で優勝をつかみ取った。

本大会の優勝を受け、5月にドーハで開催される世界選手権への代表内定が決まった。

近藤選手 堂々準優勝

グランドスラム東京

近藤隼斗選手

グランドスラム東京（GS東京）が昨年12月3・4日に東京体育館で開催され、60キロ級の近藤隼斗選手（体育3年）が準優勝をつかんだ。

学生ながら決勝に駒を進めた近藤選手は、決勝で韓国選手と対戦。延長戦の末、技ありを取られ惜しくも敗れたものの、久々に出場した国際大会で堂々の準優勝に輝いた。また、100キロ超級に出場した高橋翼選手（同3年）が3位決定戦で敗れるも、健闘を見せる結果となった。

高橋選手優勝 田中、山口両選手3位

講道館杯

高橋翼選手

近藤、高橋の両選手はGS東京の選考会として位置づけられた昨年10月29・30日に開催の講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（千葉ポートアリーナ）で優勝を果たしている。

講道館杯には本学から男女あわせ13選手が出場し、男子73キロ級で田中裕大選手（体育3年）、女子63キロ級で山口葵良梨選手（同3年）が3位となるなど本学選手の活躍が光った。

惜敗3位「前進できた1年」

全日本大学サッカー

狙いすましたシュートを放つ棚橋選手

第71回全日本大学サッカー選手権大会が昨年12月8日から1月1日の日程で行われ、平成11年以来5度目の優勝を目指す本学サッカー部は、準決勝で0対1と惜しくも敗れ3位となった。

12月17日の準々決勝では、優勝候補の明治大学を破った仙台大学と対戦し、棚橋尭士選手（体育4年）、牧山晃政選手（同）、弓場堅真選手（同）によるゴールで3対0と快勝。

同25日の新潟医療福祉大学との準決勝では、ハイプレスでシュート16本とゴールに迫ったが、1点が遠く涙を飲んだ。

主将の飯田雅浩選手（同）は「夏の王者として2冠は果たせなかったが、部として大きく前進できた一年だった」と話し、今後を後輩に託した。

悔しさ 今後に繋げて

箱根駅伝

1区で集団を引っ張る綱島選手（右から2人目）＝月刊陸上競技提供

第99回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）が1月2・3日に開催され、7年連続51回目の出場となった本学は総合19位となった（往路15位、復路19位）。総合記録は11時間13分56秒。

本学は日本人エースの綱島辰弥選手（体育4年）が1区で出走。序盤から集団を引っ張る積極的な走りでトップから33秒差の13位で鶴見中継所に飛び込んだ。2区のピーター・カマウ選手（21ア2年）も5人を抜く気迫の走りを見せ8位でタスキを繋いだ。3区以降では順位を落とすもシード権獲得の10位に4分1秒差の15位で往路を終えた。

復路で巻き返しを図りたい本学だったが、他大学との競り合いに力及ばず、10区で無念の繰り上げスタートとなった。

大会後、小川博之駅伝監督は「敗因は自身の区間配置ミス。選手らは全力を出し切ってくれた」と選手らをねぎらい、木村聖哉主将（政経4年）は「タスキを最後まで繋げられず悔しい結果となったが、今後に繋がる収穫もあり後輩たちの活躍に期待している」と今後の飛躍に期待を寄せた。

3年ぶりに沿道応援が解禁され、91万人が沿道で観戦した本大会。本学も應援團リーダー部、チアダンス部、吹奏楽部が現地でエールを送った。

安藤選手 準優勝

本学OB11選手が出場

全日本剣道

第70回全日本剣道選手権大会が昨年11月3日、東京・日本武道館で開催され、本学体育学部講師の安藤翔選手（六段、写真）が準優勝に輝いた。10回目の出場で優勝を狙う安藤選手は、準決勝で本学卒業生の矢野貴之五段（警視庁）に勝利し決勝に進出。迎えた決勝では村上哲彦五段（愛媛県警）に対し序盤から前に出てコテで攻めるも、わずかな隙を突かれてメン2本を決められ惜しくも優勝を逃した。

安藤選手は「この日のために学生とともに稽古に励んできた。期待に応えることができず本当に悔しい。さらに努力して優勝を目指していく」と今後の抱負を語った。

本大会は各都道府県を代表する64人のトーナメントで行われ、東京都代表の5人のうち3人が、全出場者のうち11人が本学卒業生だった。

出場4選手 全員が優勝

日本パラ水泳

第39回日本パラ水泳選手権大会が、昨年11月12・13日に長野・アクアウィングで開催され、卒業生を含む本学選手4人が出場し、それぞれが各種目で優勝を果たした。

東京2020大会でパラリンピックに出場した齋藤元希選手（院修士2年）は200メートル個人メドレーSM13、100メートル平泳ぎSB13、100メートルバタフライS13、100メートル背泳ぎS13の4種目で優勝し圧倒的な力を見せた。

清水滉太選手（理工4年）は50メートル自由形S13、100メートル自由形S13の2種目で優勝に輝いた。

大島茄巳琉選手（同1年）は、50メートル背泳ぎS10で優勝。100メートル自由形S10で2位、100メートル背泳ぎS10で3位となり、それぞれが表彰台の頂点に立った。

なお、卒業生の冨樫航太郎選手（令和3年理工学部卒）も50メートル背泳ぎS6、100メートル背泳ぎSB6、100メートル平泳ぎSB6、200メートル自由形S6の4種目で優勝を飾った。

また、大島選手は昨年10月29日から31日にかけて行われたとちぎ国体にも出場し、50メートル背泳ぎS10と50メートルバタフライS10の2種目で、大会新記録を更新し、見事優勝を果たした。

フレンドシップ協定 株式会社クボタと締結

メディカルサポートに協力

学校法人国士舘は昨年11月24日付で、株式会社クボタとフレンドシップに関する協定を締結した。本協定は、相互の連携・協定を通じて、学生教育および研究並びに地域スポーツクラブの発展を図り、持続可能なまちづくりと地域活性化への貢献並びに両者の発展に資することを目的に、知的資源、人的資源および物的資源の相互利活用を促進させる。

同日には、本協定に基づきメディカルサポート事業に関する覚書を締結。本覚書により、ジャパンラグビーリーグワンに所属するクボタスピアーズ船橋・東京ベイの公式戦のうち、ホストゲームである8試合に本学の医師や救急救命士、学生アスレティックトレーナーチーム所属の学生を派遣し、選手の担架搬送や医務室運営、観客・大会関係者などの救護活動を行う。

締結後、最初の派遣となった1月14日には、江戸川区陸上競技場で行われた対グリーンロケッツ東葛戦にメディカルサポートチームが出動し、救護活動に従事した。

卒業生の皆様へ

いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。

住所変更や発送停止をご希望の場合は、国士舘大学同窓会ホームページからお手続きが可能です。

同窓会事務局 ☎ 03-3413-7303

多摩キャンパスの柔道場 JOC強化センターに

本学多摩キャンパスの柔道場がこのたび、日本オリンピック委員会（JOC）の柔道競技強化センターに認定された。期間は令和7年3月末まで。

国が指定するナショナルトレーニングセンター以外の環境で効果的に選手強化活動が行えるようにするため、スポーツ庁が公募した。本学はこの認定を受け、年間20回、約100日程度日本代表選手の練習場として提供する。

本学柔道部男子は、現役や卒業生を含め全日本柔道連盟の強化選手が多数在籍しており、日常稽古においても他校や実業団など多くのトップ選手を受け入れている。日本代表合宿場としても実績が高いことから、今回の認定に至った。

新体操

喜田選手〝有終〟4位

日本勢で過去最高

東京五輪11位、世界選手権8位という結果を残し引退した喜田選手＝共同通信社提供

世界クラブ選手権

新体操のイオンカップ2022世界クラブ選手権が昨年10月20日から23日まで東京体育館で行われ、シニア個人総合で喜田純鈴選手（21ア4年）が124・600点をマークし、日本勢過去最高の4位という好成績を収めた（写真はリボンの演技）。

喜田選手は同22日のフープで風格を漂わせた堂々たる演技を披露し、同日のボール、翌日のクラブの3種目で31点台の好スコアをマーク。平成29年に自身が記録した日本勢過去最高の5位を上回った。

また、本学から山田愛乃選手（同2年）も出場し、111・650点で10位だった。

喜田選手は12月20日に日本体操協会を通じ現役引退を発表し後進にバトンを託した。

喜田選手総合優勝 2位に山田選手

全日本選手権

山田愛乃選手

第75回全日本新体操選手権大会が昨年10月27日から30日にかけて群馬・高崎アリーナで開催され、女子個人競技で喜田純鈴選手（21ア4年）が総合優勝、山田愛乃選手（同2年）が総合2位という好成績を収めた。

大会後、喜田選手は「たくさんの観客の方々に応援されながら演技をすることができて幸せだった。心身共にコントロールしながら乗り越えることができた」とコメントし、感謝の気持ちを込めた。

また、女子団体では、種目別フープ5およびリボン3、ボール2で優勝を果たし、団体総合で3位に入賞した。

男子個人では向山蒼斗選手（体育4年）が種目別ロープで3位、団体総合では2位に入賞し、今大会で本学の選手が大いに活躍した。

国際大会で初のメダル

嶋田選手健闘「銅」

アジア空手道選手権

銅メダルに輝いた嶋田選手＝空手道マガジン月刊JKFan提供

第18回アジアシニア空手道選手権大会および第20回アジアジュニア&カデット、U-21空手道選手権大会が昨年12月16日から20日までウズベキスタン・タシュケントで開催され、日本代表として本学3選手が出場した。

シニア大会では嶋田さら選手（体育3年）が個人組手61キロ級と団体組手で銅メダルを、ジュニア&カデット、U-21大会では堤さら選手（同2年）が個人組手50キロ級で銀メダルを獲得した。

堤さら選手

嶋田選手は3位決定戦での試合終了直後に失点とみなされた判定がプロテストで覆り、国際大会初のメダル獲得につながった。また、団体組手でも無敗の活躍でチームを3位に導いた。

嶋田選手は、同10・11日に開催された第50回全日本空手道選手権大会でも女子個人組手で準優勝する活躍をみせている。

マネージャーの声 No.42

軽音楽研究会

3年ぶりのライブで笑顔を見せる部員ら

前主将 瀬下 泰成（文3年）

軽音楽研究会は部員約90人が所属しています。入部当初からバンド経験がある部員は約半数で初心者も多いため、まずは梅ヶ丘のスタジオで初心者講習会を行い、その後は学内ライブに向けてバンドを組み、練習を重ねていきます。学内ライブは部活内での開催なので、部員以外の方の前では演奏を披露しません。

しかし、昨年度と今年度の楓門祭ではステージ演奏をすることができ、ステージ部門で2年連続2位という成績を収めることができました。

私の入部当初は新型コロナウイルス流行の真っただ中でした。私たちの活動は声出しを伴い、演奏するライブハウスやスタジオは密な状況であるため、活動のほとんどが制限される時期もありました。そんな中でも音楽の話題で盛り上がれる仲間に出会えたことは大変有意義でした。

今年度、私が主将として決意したことは、脈々と受け継がれてきた軽音楽研究会の伝統を絶やさず、後継へつなぐことでした。幸いにも、この時期から学内施設の利用制限が緩和されたので、3年ぶりに世田谷キャンパス多目的ホールでの学内ライブを企画しました。コロナ下では初のライブだったため、徹底した感染対策、機材の準備など右も左もわからない状態でしたが、積極的に準備に参加してくれた多くの部員に支えられ、最高のライブを開催することができました。

UKロックや邦楽ロック、パンクロックなど好みはそれぞれですが、「音楽が好き」という共通点で繋がる部員は能動的なメンバーが多く、傑出した長所だと思います。

ウエイトリフティング部

中央が砂川さん

前主将 砂川 大樹（体育4年）

ウエイトリフティング部は現在7人が所属し、多摩キャンパスのMCCTスポーツパフォーマンスセンターで、週5日活動をしています。過去には、オリンピック選手を輩出したこともある弊部ですが、近年は部員の減少が続いています。しかし、少人数だからこそ部員同士の仲が良く、全日本インカレ1部を目指して切磋琢磨しています。

また、部のマネジメントは学生が主体となって行っており、最初は慣れない仕事で大変ですが、この経験は将来に生かせるはずです。

ウエイトリフティング競技は、階級ごとにスナッチとクリーン&ジャークの2種目で行われ、最高記録の合計重量で順位が決まります。力だけが必要だと思われる競技ですが、フォームなど繊細な技術も必要となる奥が深い競技です。

私は、大学入学後にウエイトリフティングを始めました。右も左もわからない状態でしたが、先輩から技術など多くのことを学びました。高校から競技を始めている後輩や、他大学の選手に少しでも追いつけるように努力してきました。そのおかげで入部当初から引退するまでに自己ベスト重量を40キロ以上更新することができました。

このように、大学から競技を始めても自身の努力次第で成長できること、それを数字で実感できることがウエイトリフティングの大きな魅力です。

私たちはウエイトリフティングを通して国士舘大学を盛り上げていけるよう活動していきますので、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

活躍するスポーツ

【サッカー】
●第20回インディペンデンスリーグ 全日本大学サッカーフェスティバル（11／29～12／2）
2位 国士舘大学

【陸上競技】
●世田谷246ハーフマラソン（11／13）
優勝 ピーター・カマウ（21ア2年）

【レスリング】
●第48回内閣総理大臣杯 令和4年度全日本大学レスリング選手権大会（11／19・20）
男子フリースタイル
74キロ級
3位 大関寛穂（体2年）
92キロ級
2位 目黒優太（体3年）

【空手道】
●第66回全日本大学空手道選手権大会（11／20）
男子団体形
3位 国士舘大学
女子団体形
3位 国士舘大学

国士舘大学は、東京マラソン2023に協力しています

国士舘は、世のため人のために尽くせる人材「国士」の養成を目指し、「活学」を講ずる道場として1917年に創立しました。
社会貢献すなわち「他への献身」「真心をもって人に尽くすこと」という考え方に基づく活動の一つとして、東京マラソンにおいてボランティア活動を行っています。

これからも国士舘大学は、東京マラソンのサポートに限らず、さまざまなフィールドで社会に貢献していきます。